

新日銀ネットの全面稼働開始



日本銀行

2015年10月11日

新日銀ネットは、予定どおり10月13日に全面稼働開始

- 日銀ネットは、日銀当座預金決済や国債の振替決済などを安全かつ効率的にオンライン処理するわが国の基幹的な決済システム。
- 新日銀ネットは、①最新の情報処理技術を採用し、②変化に対して柔軟性が高く、③アクセス利便性の高いシステムとすることを基本コンセプトに構築。
- 利用金融機関等の(a)担保利用効率の向上、(b)資金効率の向上、(c)国債決済の円滑化、といった機能改善が実現。
- 今後、新日銀ネットの下での稼働時間の拡大（19時→21時。候補日：2016年2月15日）により、海外市場との決済時間帯の重なりが増え、クロスボーダーの資金・国債決済が迅速化。

1. 日銀ネットの役割

- 日本銀行は、日本銀行金融ネットワークシステム（「日銀ネット」）を通じて、日銀当座預金決済や国債の振替決済などの各種サービスを提供。
- 日銀ネットは、1988年に稼動開始後、決済の安定性・効率性の向上を図るため、証券と資金の同時決済（DVP）、日銀当座預金決済と国債決済の即時グロス決済（RTGS）化、流動性節約機能の導入、民間大口資金取引の日銀当座預金決済によるRTGS化などの施策を順次実施。

利用金融機関等：約500先（2015年8月末）

日銀当座預金決済：1営業日当たり約68千件、約125兆円（2014年中平均）

国債決済：1営業日当たり約19千件、約101兆円（2014年中平均）

2. 新日銀ネットの基本コンセプト

① 最新の情報処理技術を採用

- プログラミング言語やシステム連携基盤などで、汎用性が高く、今後の発展が期待される、最新の情報処理技術を採用

② 変化に対して柔軟性が高いシステムの構築

- 機能の統廃合・プログラムの共通化などを通じ、金融サービス内容やニーズの変化に柔軟に対応し得るシステムを構築

③ 金融取引のグローバル化・決済インフラのネットワーク化に対応するための、アクセス利便性の向上

- XML電文や国際標準コード(ISO20022)などの採用を通じて、内外の決済システムや金融機関との接続性を向上
- 稼動時間の大幅な拡大が可能となるシステム基盤を整備

3. 開発スケジュール

2段階移行方式

<第1段階>

- 対象業務: オペと国債の入札関連業務、国債系オペの受渡関連業務
- 2014年1月6日稼動開始

<第2段階> (全面稼動)

- 対象業務: 当座預金取引、国債決済、与信担保関連業務
- 2015年10月13日稼動開始

4. 新日銀ネットでの機能の改善・統廃合

＜主な機能の改善＞ 決済の安全性・効率性向上などのニーズに対応

- 担保の管理単位を店舗単位から法人単位へ変更

→ 担保利用効率の向上

- 振替社債等DVPの資金決済：同時決済口（流動性節約機能）の使用可能化

→ 資金効率の向上

- 振替停止期間廃止、利子配分先変更機能の新設

→ 国債決済の円滑化・担保利用効率の向上

このほかに、機能の統廃合を通じて、複雑化したシステムをスリム化

- 同時処理・一般処理を廃止して、RTGS処理へ統合 など

5. 新日銀ネットの下での稼働時間拡大

- 日本銀行では、新日銀ネットの下で、夜間の稼働時間拡大（19時→21時）を2016年2月に実施する方針を公表（昨年5月）。引き続き、利用金融機関や業界団体との間で、新日銀ネットの更なる有効活用の方法について議論を深めている。

<稼働時間拡大の意義>

海外市場との決済時間帯の重なりが増えることで、クロスボーダーの資金・証券決済が迅速化



決済リスク削減、資金・担保効率向上を通じ、わが国決済全体の安全性・効率性向上や金融市場の活性化、金融機関の企業向け決済サービス等の高度化にも資する。

<夜間における有効活用の具体例>

- ・海外との円建て顧客送金の迅速化
- ・グローバルベースでの日本国債の有効活用